

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801875		
法人名	有限会社 涼風		
事業所名	グループホーム ウイング		
所在地	〒812-0063 福岡県福岡市東区原田4丁目16-1		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4070801875-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4070801875-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成27年8月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設9年目を迎え、地域との交流も少しずつ定着しているが、今後はさらにホームが拠点となり地域に貢献していきたい。入居者様も身体的に弱くなってきている為、今残されている残存機能を十分にいかしていきたい。それと同時に社会から孤立しない様 外出の機会を多くもち(近所の散歩・薔薇園見学・山笠見学・野球観戦・お花見・海ノ中道公園散策・コスモス見学)社会との繋がりを断ち切らないよう今後も続けていきたい。また、入居者にいつまでも四季を感じていただけるように支援していく。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、福岡都市高速や博多バイパスからほど近い、交通アクセスの良い場所に立地する鉄筋コンクリート建ての建物です。ホームの周辺はマンションや企業が多い地域ですが、近くには芝生の広場や遊歩道などが整備された大きな公園があり、利用者は散歩をしたり日光浴をしたりと、緑に囲まれた憩いの時間を過ごすことができます。

ホームでは、家庭的な雰囲気をととても大切にされており、利用者に自宅での生活の延長のように感じて頂くことで、利用者の心の安定を図り、自由に充足感のある日々を過ごして頂けるように支援されています。職員は、利用者に対して家族のように接する一方で、礼儀をわきまえ節度を持ってサービスを提供するようにも努められています。利用者がホームに入所した後も、いつまでも地域や社会と関わり続けられる生活が送れることも目標の一つにされており、地域住民との交流や外出支援にも力を入れています。避難訓練の際には、近隣のマンションの住人の方々にも参加して頂いたり、幼稚園などに行事の参加をお願いしたりと、多方面に積極的なアプローチが行われており、交流の輪を広げられています。

外出支援では外の空気を感じて楽しんで頂き、美味しいものを食べて笑顔になって頂けることを心掛けており、利用者の喜ぶ顔は職員の介護を行う上での満足感にも繋がっています。より良いサービスの提供を目指して、様々なアイデアやレクリエーションなどの提案も活発に行われています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見えやすい場所に理念を掲示し、毎日の申し送り後入居者も一緒に全員で唱和し、事業所全体で共有している。常に念頭に入れ業務に当たっている。	「心やさしく、おだやかに、のんびりと自分らしく」という理念は、ホームを設立するときに職員も参加して皆で考えられたものです。理念に基づき利用者の自分らしさとは何かを考え、職員は一人ひとりの個性を大切にしながら、家庭的でのんびりとした日常生活を送れるように支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に新聞やダンボールを出したり、秋祭りや防災訓練等に自治会や老人会、地域の方々を招待している。秋祭り際には介護相談スペースを設け地域の方との交流を図っている。又、中学生の職場体験も受け入れを毎年行っている。散歩や買い物等に出掛けた時は近所の方へ挨拶を積極的に行っている。	地域との関わりや結びつきを強くしたいとの想いから、様々な交流を企画したり、体験学習を受入たりされています。ホーム主催の秋祭りも近所の方々に浸透するまでは、祭りを知らせるチラシを作り、1軒1軒ポスティングして回るなど、ホーム側から積極的に行動を起こされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行っている。老人会や民生委員、包括支援センターの方々からの相談を聞いて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の普段の生活状況などの報告を中心に、災害時の協力体制をお願いしたり、地域高齢者にまつわる質疑応答を行っている。	行政担当者や元老人会会長、民生委員などに参加頂き定期的に開催されています。年に2回開催される家族会の際には、運営推進会議も合同で行われ家族にも参加して頂けるように努められています。今後は地域にある他のグループホームの運営推進会議に出席し、自分達の会議の参考にされることも計画されています。	家族会との合同での開催により、家族に参加して頂く工夫や外部見学の計画など、意欲的な姿勢は見られますが、参加されていない家族への会議録の閲覧など、情報提供に向けた取り組みについても今後の課題として検討されることを推奨します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センター方に参加して頂いたり、生活保護課や介護保険課の担当者とはまめに電話や訪問にて連絡を取り合っている。	ホームには様々なケースの利用者がおられるため、市役所の各担当者や地域包括支援センターなどと日頃から連絡を取り合い、協力体制が構築されています。困難事例がある時にはすぐに連絡を行い、相談をしながら解決が図られており、互いに信頼関係も築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的なケアの中で、身体拘束となる言葉かけや行動制限などが行われていないか、フロア会議で適宜話し合っている。夜間帯や職員が少ない時間のみ鍵の施錠は行っているが、日中はしない様に周知している。また、外部・内部研修を行い理解を深める様に努めている。	身体拘束ゼロへの取り組みにはホームを挙げて力を入られています。職員は、定期的な勉強会や事例検討等を通じて、身体拘束に対する新しい情報や認識を深めるよう努められています。身体の安全上ベットの使用がやむを得ない場合には、家族に頻繁に連絡を取り、報告と相談を行いながら安全対策に努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待などの新聞記事を切り抜き、全職員に回覧してもらったり、外部の研修に参加し理解を深めてもらっている。 また、日頃より職員同士で注意し合える関係作りにも努めている。職員自身がストレスをため込まない様に心がけている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が3名おられるが、後見人の方とは調整を密に行い、不明な点がないようにスタッフ全員がよく確認しながら対応している。成年後見制度について資料を基に知識を共有している。	ホームでは、成年後見人の申し立て手続きの実績もあり、その経験は成年後見制度について、より一層の理解につながっています。制度についてのリーフレットなどもホームに備えられており、家族や近所の人から制度について尋ねられても対応できるよう準備を整えられています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の年齢や理解度に応じたわかりやすい説明を心がけ、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族が、出席し外部に意見を伝える機会を作っている。面会時や日頃のサービス時に利用者や家族の意見に耳を傾け、苦情、不満があった場合は全職員で話し合いを行い対応するよう心がけている。また 相談、苦情受けの窓口を、重要事項説明書とホーム玄関に掲示している	5月と12月に行事とを絡めた家族会を催し、利用者家族の要望などの収集にもつながられています。面会時や電話時には、家族の意見が引き出せるように心掛け、利用者とは何気ない雑談の中で何を望まれているかを読み取るよう努められており、希望に添えるように支援されています。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロア会議を実施し、職員の提案や意見を聞いている。また管理者は、日々のケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を聞いている	管理者は、職員が気軽に意見を述べやすい雰囲気づくりに努められており、会議の中でも活発に意見が交わされています。また、職員の様子の変化を見逃さないように心を配り、困っていることがあれば話を聞いて解決の手助けをされています。休憩時間もゆとり取れる働きやすい環境が整えられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に管理者や職員の意見・提案を聞きながら常に施設にとって良い方向に反映させるように就業環境の整備に努めている。勤務時間の見直し、各業務内容の精査・整理を実地し、業務負担の偏りや過度な残業が発生しない様にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に関しては、希望があれば全員対応しており、年齢や性別の制限は設けていない。経験や趣味を生かして働いていただけるよう配慮している。また、未経験・無資格の方も受け入れ職員全員でサポートできるよう体制を整えている。	ホームでは実際にシニアの人でも介護職員として活躍されています。新人研修にはベテラン職員がついて指導を行い、介護職が初めてでも戸惑わずに安心して仕事ができるようサポートされています。出産や育児、介護などで休暇が必要になった場合も職員の希望に添えるよう柔軟に対応されています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回外部研修・内部研修に参加して理解を深めて、レポートを記載して頂きました。随時、会議の中で言葉遣いや接し方、認知症に対する対応などを見つめなおす機会を設けている。	外部研修受講の他、内部研修が定期的に行われています。外部研修受講後は伝達講習が行われ、職員全員で研修内容を共有されています。また、折りに触れ人権を尊重することの大切さを学ばれています。利用者に接する職員の対応に気になる点があった場合は、管理者がすぐに指摘や指導を行われています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、新人研修の参加を段階に応じて行っている。 資格を持っていない職員にはヘルパー2級の資格を取得するよう勤め勤務等も配慮している。また介護福祉士等の資格取得に向けてのサポートも行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換を行っている。 また、空室時や満室時は近隣のグループホームと連携を図ってお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に御本人の御希望や不安等を伺い、その場で解消し その情報等をスタッフ全員が把握し、随時スタッフとコミュニケーションをとり安心できる信頼関係を築くように努めている。			
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談時にグループホームでの生活や特徴を説明すると共に、ご家族の想いを十分に聞き取りながら信頼関係づくりに努めている。			
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学の時点で、御本人様の様子や近況を伺いながら、御家族の不安や分からない部分を解消し、一番適した社会資源を紹介している			
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で、スタッフと共にお手伝いをしたり、各入居者様に役割(出来る事お手伝い)をして頂き充実した生活(生きがい)が永く送れるように支援している。			
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヵ月毎の運営推進会議へのお誘いや年間の行事(秋祭り・母の日など)を計画 参加して頂いたり、事前に段取り出来る受診に関しても出来るだけ ご家族の付き添いをお願いし来苑機会を増やしている。			
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの顔馴染み(お友達)が面会に来られたり、御本人や御家族の希望があれば御家族に同行して頂き 外食や親戚の美容室に行かれています。	利用者が入居前から通っていた公園で、かつてのゲートボール仲間と話す機会などもあり、馴染みの関係が継続できるよう支援されています。友達や近所の人が利用者を訪ねて遊びに来られた際には、明るく挨拶をし、居室でゆっくりと話して頂くなど、気軽に来訪して頂けるような配慮がうかがえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や癖に合わせて、フロア席替(食事)えや居室の移動を行ってトラブルを防止している。またレクリエーションや行事などを通じて交流が出来るように努めている。他利用者との交流が困難な方にも職員が間に入り交流が持てる様支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所家族より、連絡や相談があった場合は様子をうかがったり、当ホームでの暮らしぶりなどを参考にしてもらったりと相談支援をしている。介護保険に対しての問い合わせ等も、色々な社会資源などを紹介している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望を一番に又、希望や意向が難し時は、家族から伺い それを基にケアプランを作成している。 困難の場合は、以前の情報や暮らしぶりなどから情報の把握に努めている。	起床や消灯時間など基本的なルールはありませんが、利用者のその日の気分や体調に合わせ臨機応変に対応されています。公園のベンチで缶コーヒーとパンを楽しんだり、ホークスのユニフォームを着てメガホンを持ち、テレビの前で野球を観戦したりと、利用者は思い思いに好きなことを楽しまれています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時の聞き取りや日常の会話より情報収集を行い、生活歴、家庭環境等の把握に努めている。御本人のペースでホームに慣れて頂き、これまで使っていた家具(置物)や仏壇などを置いたりして なじみのある空間を確保している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼・晩と御本人のペースで、ホーム生活を充実して頂き、朝・夕の申し送り 個人カルテやアセスメント表を記入して、スタッフ間の情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回各フロア会議を開催し月評価、カンファレンスを行い、ご本人、ご家族、医療機関の意見を聞きながら、職員全員で検討している、日々小さな変化などがあれば、ケアプランに記録し、その場のスタッフ同士でも問題解決を行ない介護支援計画を作成している。	プラン更新の際には、担当職員を中心に職員全員で会議を開き、気付いた点を出し合って介護計画書を作成されています。完成した介護計画書からは、新人職員など誰が見てもわかりやすいような配慮がうかがえます。また、計画書に沿った日課計画表なども整備され、目標の達成にも努められています。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや日誌、申し送りノート等を細かく記入する事で、職員間で情報を共有し、より良い実践方法や介護計画の見直しを行っている。気づきシートやヒヤリハットなどを活用し日々の情報を共有している			
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の業務的な流れは、有るが、その日の状況により、柔軟な対応をしている(当日の薔薇園見学・ドライブなど) 入居者様の体調なども考慮している。			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣・お花見・どんたく隊への応援・山笠見学・秋祭りなど地域交流を楽しんだり、運営推進会議(2ヵ月毎)の実施・中学生の職場体験学習受け入れを実施している。			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診や体調不良時は、24時間のサポート体制(電話で指示を頂く)を整え、訪問歯科にて週1回の往診、口腔ケアも利用している。その他に本人家族の希望に応じた医療機関との連携も行っている。かかりつけ医の指示で皮膚科や専門医療機関受診も随時行っている	複数の協力医療機関と連携して診察や予防接種が行われています。また、以前からのかかりつけの専門医などを受診することも可能とされています。利用者の普段の状況が医師に伝わるように、付き添いの家族に生活記録のコピーを預ける等の取組も見られます。状況に応じては、職員による同行も行われています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	時間に関係なく、異常があれば 個人カルテに記録し、24時間かかりつけ医や看護師の方とFAX・電話連絡を取り指示して頂ける体制になっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーや情報提供書を作成し、医療機関との連携をはかり、情報交換や関係作りを行っている。入院中でもADLが変わる事があるので、状況に応じてカンファレンスを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化した場合における方針は入居前に十分説明し同意をえている。重度化された場合、ホームドクター、ご家族と話し合いを重ね、個人の症状にあった医療機関や施設等への、転移を援助し、ご本人が安心できる方策を検討し支援している。基本的には、当ホームでは看取りは行っていない。	現段階では、ホームでの看取り介護は行われていませんが、状況が変わるたびに家族や利用者や話し合われながら、ギリギリまでホームで介護が行なわれています。終末期に入るラインについては、事前に家族に説明が行なわれており、職員にも終末期についての研修や看取りについての勉強の機会が設けられています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを設置しており、職員は救急救命講習を受講している。また年春秋2回の消防訓練を行い、地域の方々や入居者も参加してもらっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前近くの川が氾濫し1F入居者が2Fへ避難することが有り、それ以来気象庁の天気予報には、充分に注意している。年2回の防災訓練を入居者も一緒に行っている、夜間設定の訓練も実施し、市や県からの災害の指示、勧告がある際はフロアに掲示し全職員周知出来る様にしている。(災害シーズンには、特に注意喚起をしている)	水害や各種災害時における手順などをマニュアルとして整備し、職員との話し合いも行われています。緊急時に備え、飲料水の備蓄や火を使用せずに食べられる食料も備えられています。2階フロアには、火災時の出口が3カ所設けられており、火元により安全な経路を選択し、避難誘導するように備えられています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー(更衣・入浴・排泄)関わるケアでは、内と外にも十分な配慮を行い、個人情報の取り扱いについては、定期的に外部研修を受け、退職された方にも守秘義務を徹底し、社内情報の流出には十分注意を心掛け、入居者の尊厳を尊重した対応を行っている。	失禁時には利用者の羞恥心に配慮して、周囲の人に気付かれないよう速やかに対応されています。パソコン内の利用者の個人情報の管理には、セキュリティが構築されています。ケアプラン作成時の討議に使用された資料も全て破棄されており、情報が外に持ち出される事がないよう努められています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフひとり一人が、各入居者様に常時コミュニケーションを取り、希望を伺い自己決定が出来るよう声掛けをし、ホーム生活の中で、希望に添えるような支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様ひとり一人の日常生活リズムを優先し、希望に沿った、外気浴、散歩、テレビ視聴、レクリエーション等、御本人にあった時間が過ごせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが身だしなみの好みを把握しており スタッフと季節にあった服を選んだり、御本人の好みを優先する事を心掛けている 又、2か月に一度訪問理美容を利用し、気分転換を行なっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れた買い物や、綺麗に見える盛り付け、後片付けを職員と共にしている。食事も一緒に、会話しながら提供しており、食べるペースが早い方や遅い方もしっかりと食事が摂れる様に配慮している。お手伝い出来る入居者様には、テーブル拭きやお膳拭きなど積極的にして頂いている。	献立は、その日の気候や利用者の希望などにより、調理担当者が考えられています。旬の食材を使うように心掛け、土用の丑の日には鰻を献立に入れるなど季節感も大切にされています。外食支援の際には、ミキサー食の人も食べられる特別メニューを店にお願いするなど、皆で外食を楽しめるように工夫されています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病状に応じて、食事量の調整を行い、摂取量も確認している。水分補給については、食事の他に、10時と3時の飲水(コーヒー、お茶、ジュースなど)と常時ペットボトルにお茶を各自に準備している。食事の摂りづらい方には、経口栄養剤を提供している。食事の形態は、体調に考慮しキザミ食・ミキサー食なども提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居宅療養管理指導月4回(歯科衛生士)・月2回(歯科医師)往診があり、口腔ケア、義歯の調整を行っている。1日3回の食後には口腔ケアの声掛けや介助が必要な方には支援し、清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄タイミングの入居者様は、申し送り(朝礼)を行いスタッフに伝達している(失敗の防止) 排便確認が取りにくい方などは、排泄表や下用タオル(朝・夕の清潔保持)を活用し 排泄パターン把握している。夜間リハパンツ、パットの使用の方も日中は布パンを使用するなど、トイレでの排泄が出来るよう援助している。	ホームでは、排泄の自立支援に取り組まれています。利用者の尊厳や快適性、皮膚トラブルを予防するという観点から、重度者以外は日中は布パンツで過ごせるよう支援されています。各ユニットにはホットタオル用の保温器も備えつけられており、毎日陰部清拭を行うなど、清潔の保持に努められています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、食物(食物繊維)、水分補給、腹部マッサージなど日常生活でも便秘にならないよう心がけている。毎朝バイタルチェック時に排便の確認を行い、確認が取れない場合には腸音、腹満などの確認も行っている。便秘が続く場合は、Dr.の指示により下剤の処方を受けている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬季は週2回、夏季は週3回を基本にして入浴行っている。入れなかったりした場合2Fのユニットでの入浴などの対応を行っている。入浴剤を入れたり、湯温もご希望に添えるよう配慮している。また状況に応じて入浴日以外もシャワー浴を行ったりしている。入浴時間は、午前や午後など当日の天候など考慮している。	入浴に拒否傾向がある人には言葉の掛け方や誘導の仕方に工夫を凝らし、気持ちよく入浴して頂けるよう努められています。5月5日には菖蒲湯、冬至にはゆず湯など、日本の伝統的な習わしを取り入れて入浴を楽しんで頂けるよう工夫されています。安全面には特に気を配りながら、入浴介助が行われています。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、各入居者様の習慣に合わせている居室にて過ごされる方や日中フロアのソファにて過ごされる方もいる。又、ベッド臥床時に足を挙上して頂いたり、傾眠が続く時は、ベッド臥床の声掛けを行っている。夜間巡視時も安眠出来る様、室温や照明や音にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の症状服薬について、薬状にて目的や副作用などを理解し、与薬時(名前、日付、薬量など)を確認し、誤薬の無いように努めている。日々の生活をしっかりと観察し、薬の変更時に気を付けている。又、薬局から頂いた処方箋をファイルに綴じたり お薬手帳を活用している(受診時)		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLに問題の無い方や、お手伝いの好きな方には、フロア掃除(モップ掛け)、洗濯物干しなど積極的に参加してもらい役割分担を行なっている。外気浴、外出、外食、レクレーション(カラオケなど)等、気分転換が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の歩行状態や健康状態に留意し、スタッフの配置・車椅子使用を考え ホーム近くの公園を散歩したり、希望に合わせて外出やドライブに出掛けたり、山笠やどんたくなどのイベント会場に出掛けたり支援している。必要に応じてご家族に同行をお願いしたりしている。	散歩や日光浴、買物など、日常的な外出支援が行なわれています。ショッピングセンターのフードコートでドーナツやアイスクリームを食べる機会もあり、利用者に好評のようです。交通アクセスの良さを生かし、海の中道海浜公園や、福岡ドームでの野球観戦、太宰府天満宮でのホタル狩りなど、様々な外出行事も催されています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員(担当者)が管理しており、御家族にも金銭出納表を毎月送付している 外出(行事)で普段お金を所持されていない方も外出先では好きなものを、スタッフと共に買い物や食事が出るよう支援している。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時(平常時)ご家族からの電話は取り次ぎを行っている。また希望時はご家族の了承の下、電話は掛けれるようにしている。また入居者によっては手紙を書かれる為、郵送など支援している。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関(花壇)やフロアに季節に応じた飾り物や季節の花など植え替えをしている。トイレや居室など必要に応じて消臭剤や芳香剤など設置し不快の無い環境を保っている。各居室に室温計を設置しこまめに温度調整している。	皆が集まるリビングには、椅子やソファがたくさん配置され、利用者は好きな場所で寛がれています。2階には屋根付きの広いテラスも有り、気候が良い時期にはテーブルを出して、テラスランチを楽しむ事も出来ます。温度や湿度の管理は定期的に確認し、快適に過ごせるようエアコンを調整されています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファやテーブル、テレビなど各所に設置して、入居者さんが楽しく談話でき、ひとりでも”ほっと”出来る 空間づくりを目指している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族や本人と相談し、以前から使用していた家具(仏壇)や寝具を使用して頂いたり、ご家族との写真等を飾ったり照明や安全に配慮した、心地よい空間になるよう工夫している。	長年使い慣れたタンスやテレビなど、利用者が好む物や必要な物を自由に持ち込むことができますが、安全に配慮し、火気や危険物は持ち込み禁止とされています。部屋の装飾やレイアウトは、基本的に利用者と家族で自由にされていますが、職員による完全面に関するアドバイスなども行われています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者が御自分の居室やトイレを迷わないように、表札や貼り紙を掛けている。(夜間は、照明などで補っている) トイレや浴室など必要に応じて、手摺り等を設置してバリアフリー化している。居室の家具やベッドの位置なども、転倒や安全に配慮した環境整備に取り組んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見えやすい場所に理念を掲示し、毎日の申し送り後入居者も一緒に全員で唱和し、事業所全体で共有している。常に念頭に入れ業務に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に新聞やダンボールを出したり、秋祭りや防災訓練等に自治会や老人会、地域の方々を招待している。秋祭り際には介護相談スペースを設け地域の方との交流を図っている。又、中学生の職場体験も受け入れを毎年行っている。散歩や買い物等に出掛けた時は近所の方へ挨拶を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行っている。老人会や民生委員、包括支援センターの方々からの相談を聞いて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の普段の生活状況などの報告を中心に、災害時の協力体制をお願いしたり、地域高齢者にまつわる質疑応答を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センター方に参加して頂いたり、生活保護課や介護保険課の担当者とはまめに電話や訪問にて連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的なケアの中で、身体拘束となる言葉かけや行動制限などが行われていないか、フロア会議で適宜話し合っている。夜間帯4本柵使用の方は、入眠した際には柵を外し、外した時間をケアプランに記入することにてデータを取り、すべての時間外せるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待などの新聞記事を切り抜き、全職員に回覧してもらったり、外部の研修に参加し理解を深めてもらっている。 また、日頃より職員同士で注意し合える関係作りにも努めている。職員自身がストレスをため込まない様に心がけている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が3名おられるが、後見人の方とは調整を密に行い、不明な点がないようにスタッフ全員がよく確認しながら対応している。成年後見制度について資料を基に知識を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、相手の年齢や理解度に応じたわかりやすい説明を心がけ、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族が、出席し外部に意見を伝える機会を作っている。面会時や日頃のサービス時に利用者や家族の意見に耳を傾け、苦情、不満があった場合は全職員で話し合いを行い対応するよう心がけている。また 相談、苦情受けの窓口を、重要事項説明書とホーム玄関に掲示している		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロア会議を実施し、職員の提案や意見を聞いている。また管理者は、日々のケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を聞いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に管理者や職員の意見・提案を聞きながら常に施設にとって良い方向に反映させるように就業環境の整備に努めている。勤務時間の見直し、各業務内容の精査・整理を実地し、業務負担の偏りや過度な残業が発生しない様にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に関しては、希望があれば全員対応しており、年齢や性別の制限は設けていない。経験や趣味を生かして働いていただけるよう配慮している。また、未経験・無資格の方も受け入れ職員全員でサポートできる体制を整えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回外部研修・内部研修に参加して理解を深めて、レポートを記載して頂きまた随時、会議の中で言葉遣いや接し方、認知症に対する対応などを見つめなおす機会を設けている。職員同士で気づいた際には対応などを見つめなおしている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、新人研修の参加を段階に応じて行っている。 資格を持っていない職員にはヘルパー2級の資格を取得するよう勤め勤務等も配慮している。また介護福祉士等の資格取得に向けてのサポートも行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換を行っている。 また、空室時や満室時は近隣のグループホームと連携を図ってお互いに協力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、御本人の要望を把握し不安無く過ごして頂けるよう努めている。また入居後はこまめにコミュニケーションを取りながら、信頼関係を気付くよう心掛けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、御本人のこれまでの経過や基本情報を把握し希望や思いを伺って、サービスを開始するようにしている。入居後もカンファレンスを行い、生活や健康面等、御本人の詳細を伝えたりして、信頼関係を気付くよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報に基づき、御本人の生活パターンや状態の観察を行い、御本人を知る事を目的としたケアプランをまず作成し、入居後は、その方の状態に合ったケアプランを再度作成し又はカンファレンスを行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事は、御本人でして頂き、残存機能低下防止を心掛けている。洗濯物干しやお膳拭き等、その方に合わせてできるお手伝いをお願いし感謝を伝えることで、役割を感じていただけるケアに努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の様子をこまめに報告し、いつでも気軽に来苑して頂ける環境作りを心懸けている。受診の付き添い等をご家族にお願いしたり、面会時は居室でゆっくり談話して頂いたり、外出や外食等促し、事前の準備などを支援している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話を傾聴共感し、家族の了解のもと友人の面会、電話の取次ぎを行っている。入居者の中には親族の法事にも行かれている方もおられる。また、お盆やお正月も、出来るだけご家族と過ごして頂けるよう、お声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩等を行い、利用者同士の交流が持てる様に支援している。個人の性格や症状に合わせて、食事の席を考慮したりして利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。花札やトランプなどを楽しませている利用者もおられる		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や、移籍先の施設からの問い合わせや相談は常に受け付けており、いつでもお答えできる環境にある。実際、移籍先の施設よりケアに対する問い合わせがあったが当苑におられた時の状態を説明し、ケアの方法をお伝えしたことがあった		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通し、思いや希望を傾聴し、出来るだけ利用者の意向に添うように配慮している。毎月行っているケアカンファレンスで職員全体で共有し把握に努めている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、入居後も利用者や家族の何気ない会話の中から情報を得ると共に記録に残している。居室内にも今まで使われていた家具を使用してもらったり、希望される方は仏壇を置いたり、写真を飾ったりしてなじみの空間の中で生活をして頂いている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを取りながら、一日の過ごし方、身心の変化、体調等の変化を見落とさず、記録に残しニーズや健康状態の把握に努めケアカンファレンスを通し職員間で情報を把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや毎日の申し送り等で情報を共有し、意見やアイデアなどを出し合い、家族や医療機関などと連携を保ち、アセスメント、モニタリングを繰り返しケアプランの見直しに取り組んでいる		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に事実や変化、新しい気づきを具体的に記録し、毎日の申し送りや日誌、申し送りノート等で情報を共有すると共に、介護計画の見直しや日々の職員の実践に繋げている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に添って、理美容や訪問マッサージを利用しサービスの多機能化に取り組んでいる。その他に日課計画表(4表)を作成し利用者個人に合った柔軟なサービスに対応出来るよう様努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭り、消防訓練、廃品回収、中学生の職場体験、定期的な運営推進会議の開催等、地域と積極的に関わりを持ち、自治会や老人会などの繋がりを大切にしていく		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間サポート体制を行っているホームDrの往診や歯科のDr検診、口腔ケアサポートを利用している。他科受診の際、情報提供書や介護サマリーの作成も行っている。家族の付き添いが出来ない場合は付き添いが出来る体制にある		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームDrの看護師の方とは24時間体制で連絡出来る様になっており、身体的変化があった場合はすぐに指示がもらえる状態である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、ホームDrからの情報提供書と共に提出できるよう常に準備が来ている。退院時は看護添書を預かり、在宅療養を行う。退院時の状態でケアプランの見直しを行い作成している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていないが、重度化した場合やグループホームとして対応が出来なくなった時は、ホームDrや家族と話し合いを重ね、本人に合った医療機関や施設等への転移を援助し、本人や家族が安心出来る様支援している		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会に参加したり、ホーム内外の研修を定期的に参加したり、緊急マニュアル熟読で緊急時の対応が全職員が出来るよう、知識習得に努めている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施、水害対策の内部研修を行い、災害時に備え、非常食や懐中電灯等の準備をし、県や市からの災害情報は職員全体で共有できるような体制が整っている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部、内部研修で知識を身に付け、個人情報の取り扱いや流出には細心の注意を心掛け、職員全員で利用者の尊厳とプライバシー確保の徹底に努めている。特に排泄については、周りに分からないように、1対1のケアで行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でコミュニケーションを取り、信頼関係を作り、希望や願いを表しやすい環境作りを努めている。共同生活の中で出来る限りご本人の希望に添えるような支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを最優先とし外気浴、散歩、テレビ視聴、レクリエーション等を行いながら、一人一人のペースや症状に合った時間が過ごせるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にホットタオルを渡し整容したり、外出時は好みに合わせた洋服選びを一緒に行ったり、定期的な訪問理美容で化粧や顔そり、散髪を行う等、喜んで頂けるような支援を行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや状態に合わせた料理を提供し、毎食メニュー表に記入し献立が重ならないよう気を配り、検食簿に記入し、盛り付け、味付け、異物混入の有無を確認しながら、バランスの良い食事が提供出来るよう努めている。お手伝い出来る方には、盛り付け等お手伝いをお願いしている		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた量、バランス、料理方法、介助の方法、食べやすい食器選びに心掛け、摂取量を毎食記入して健康状態を把握し検討している。水分は食事の他にも10時、15時、夜間のペットボトル、その他、希望時や状態に応じて提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、介助が必要な方は、毎回職員が付き添える環境が整っている。週1階、訪問の口腔ケアを受けられ、いつも清潔な状態が保てるよう支援している。夜間は義歯使用者全員預かりとし、消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所されて一か月は排泄表を記入し、排泄パターンの把握に努め、必要ならば継続的に行っている。時間を決めてのトイレ誘導を行い、出来るだけパットやリハビリパンツに頼らない排泄をめざし、自立へ向けた支援に取り組んでいる		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、水分摂取、食事メニューに気を配り、毎日の申し送りや日誌にて排便の有無を確認している。やむを得ない場合は、ホームDrの指示のもと、下剤処方にてそれぞれの排泄パターンに合った対応で支援している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	在宅と同様に、午後からゆっくりと入浴して頂いたり、個人の状態に応じて、入浴介助を行っている。希望があれば入浴日以外にも、入浴出来る様に、職員は常に入浴介助服の準備をしている。利用者の方が気持ちよく入浴出来るように支援している		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はそれぞれの状況や体調、生活習慣、活動後等、休息しやすいよう支援したり、夜は安眠出来る様に室温、照明、音など環境を整えたり、巡視による安全確認を行い、休息、安眠の支援に努めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の症状、服薬、副作用、容量を把握し、変化があった場合は全職員で情報交換するように徹底し記録に残すと共に、経過や変化を医療機関に情報を提供する。与薬時に日付や名前を読み上げ、飲み込みを確認する事を、常に行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外部での行事参加、外食、買い物、ドライブ、観劇、野球観戦等、喜びや気分転換、生活面での役割分担、1階設置のカラオケを使ったり、ビデオ鑑賞等、充実した一日がおくれる様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に状態にあわせた苑外散歩や外気浴、山笠見学や虫狩り、近所の公園での桜見、外食等、希望に添えるように工夫をしながら支援している。必要に応じて家族の方の協力も頂いている		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金の管理は、家族と相談し合意を得たうえで事業所が預かり管理している。外出した際やショッピングでは自由に金銭を使う事ができ、楽しめるように工夫した支援を行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙郵送を希望されている方はいらっしゃるが、希望が有れば常に対応できる。電話については家族の了解の範囲内で取次ぎは行っている。又、家族にはいつでも連絡の取れる状態である		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には、季節に応じた環境整備を行ったり、家庭を感じる雰囲気作りを工夫している。壁面には手作りの絵や季節感のある飾りをする等、職員全体で努めている。食事時は利用者の症状にあつた座席を決め、気兼ねなく食事が楽しめる様にして頂いている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ視聴、ゲーム、談話等、好みに応じた時間が過ごせるように気を配り、一人一人が自由に過ごせる場所や、仲間同士の触れ合いがしやすい様な空間作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシー、室温や照明などにも気配りしながら、家具の配置は安全第一と考え、危険が無いよう工夫している。家族写真や装飾品、お仏壇など慣れ親しんだ物に囲まれ、安心して暮らして頂けるよう支援している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体がバリアフリーで、各所に手すりを設置し、移動や立ち上がりに危険が無いよう最大限に注意を払い支援している。夜間は保安灯等を設置したり、非常時の誘導灯もあり、利用者が安心して生活がおくれる様に努めている		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		